

大阪市の犯罪情勢

大阪府警察の取組

「大阪重点犯罪」と「署指定犯罪」を重点対象とした「地域の犯罪情勢に即した犯罪抑止総合対策」について、検挙及び防犯の両面にわたる総合的な警察活動を戦略的に展開するとともに、自治体、事業者、地域住民等と連携・協働したオール大阪体制で犯罪の起きにくい安全なまちづくりを推進しています。

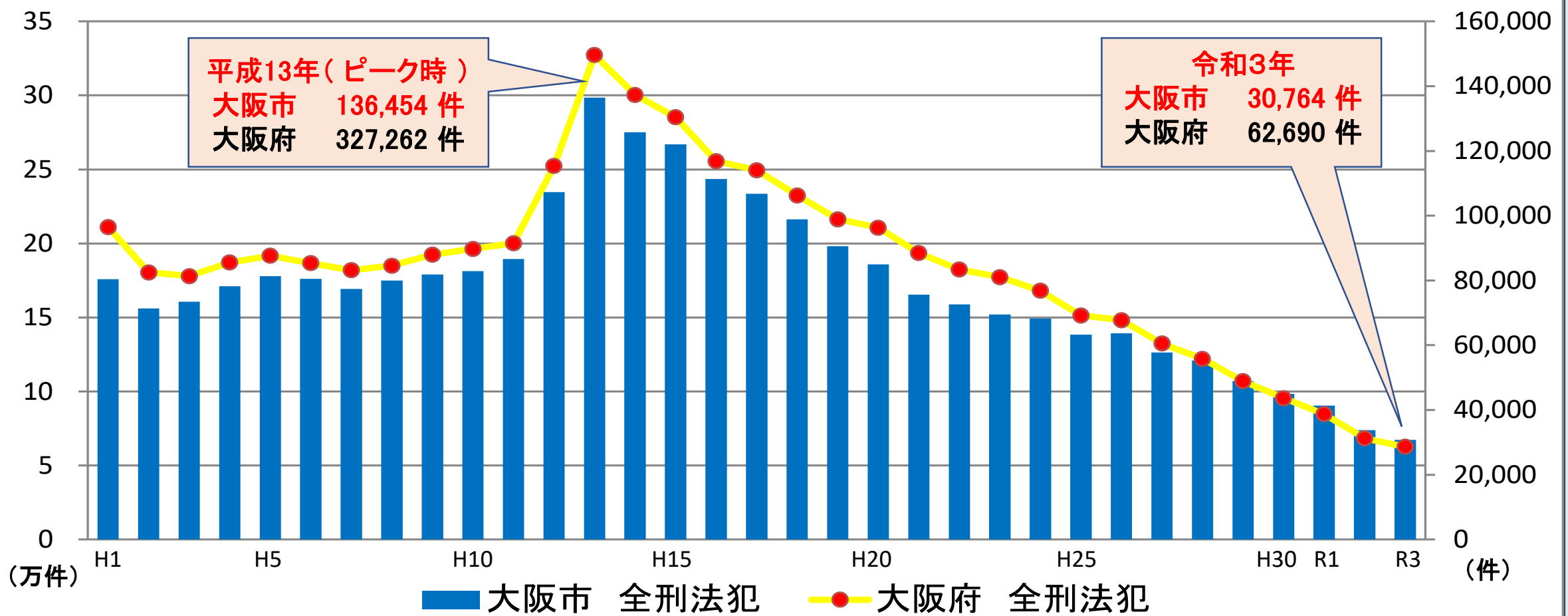
大阪重点犯罪

- 子供や女性を狙った性犯罪
(強姦性交等・強制わいせつ・公然わいせつ・痴漢)
- 特殊詐欺
- 自動車関連犯罪
(自動車盗・車上ねらい・部品ねらい)

署指定犯罪

大阪重点犯罪以外で、警察署管内の発生状況から地域住民等の安全・安心を脅かし、課題等となっている犯罪のうちから、警察署長が指定する犯罪

刑法犯認知件数の推移(大阪市・大阪府)



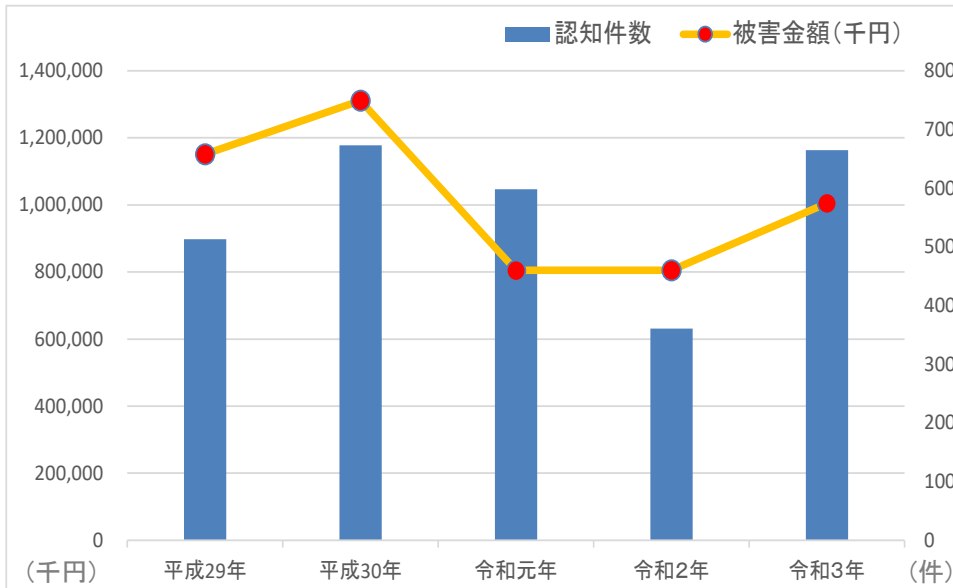
大阪重点犯罪等の認知件数

	全刑法犯	強制性交等	強制わいせつ	公然わいせつ	特殊詐欺	自動車盗	車上ねらい	部品ねらい	ひったくり	路上強盗
令和2年	33,774	91	253	194	361	314	2,147	1,038	107	36
令和3年	30,764	89	248	203	665	219	1,755	1,194	67	32
(対前年増減率)	-8.9%	-2.2%	-2.0%	4.6%	84.2%	-30.3%	-18.3%	15.0%	-37.4%	-11.1%
府全体の件数	62,690	154	508	387	1,538	519	3,509	2,811	100	46
府全体に占める割合	49.1%	57.8%	48.8%	52.5%	43.2%	42.2%	50.0%	42.5%	67.0%	69.6%
令和4年5月末	12,102	46	103	60	337	91	580	299	42	11
府全体の件数	24,942	77	225	122	750	261	1,362	893	58	19
府全体に占める割合	48.5%	59.7%	45.8%	49.2%	44.9%	34.9%	42.6%	33.5%	72.4%	57.9%

※ 令和4年5月末の数値は速報値を示す。

大阪市内の特殊詐欺の情勢

被害の推移(過去5年)



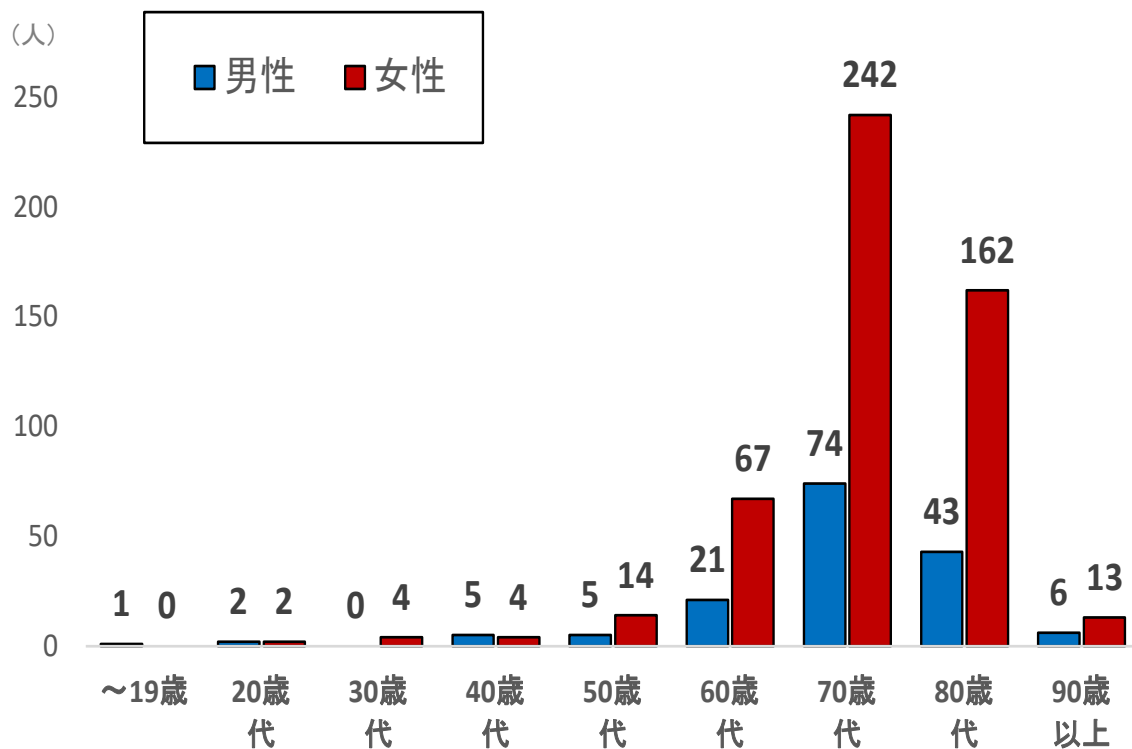
		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
認知件数(件)	大阪市	513	673	598	361	665
	大阪府	1,596	1,771	1,809	1,107	1,538
被害金額(千円)	大阪市	1,151,559	1,311,333	803,272	805,499	1,004,988
	大阪府	3,760,201	3,748,142	2,518,472	2,248,060	2,414,409

手口別被害状況(1~5月)

	認知件数				被害金額(単位は千円)			
	令和4年(1-5月)	令和3年(1-5月)	増減		令和4年(1-5月)	令和3年(1-5月)	増減	
			件数	増減率			増減額	増減率
特殊詐欺全体	337	182	155	85%	454,685	367,977	86,708	24%
オレオレ詐欺	14	10	4	40%	47,428	48,602	-1,174	-2%
預貯金詐欺	48	74	-26	-35%	62,618	116,958	-54,340	-46%
架空料金請求詐欺	26	26	0	-	31,824	126,709	-94,885	-75%
融資保証金詐欺	0	0	0	-	0	0	0	-
還付金詐欺	171	53	118	223%	191,473	48,262	143,211	297%
キャッシュカード詐欺盗	78	19	59	311%	121,342	27,446	93,896	342%
上記以外	0	0	0	-	0	0	0	-

※ 令和4年の数値は速報値を示す。

被害者【年齢別・男女別】(令和3年)



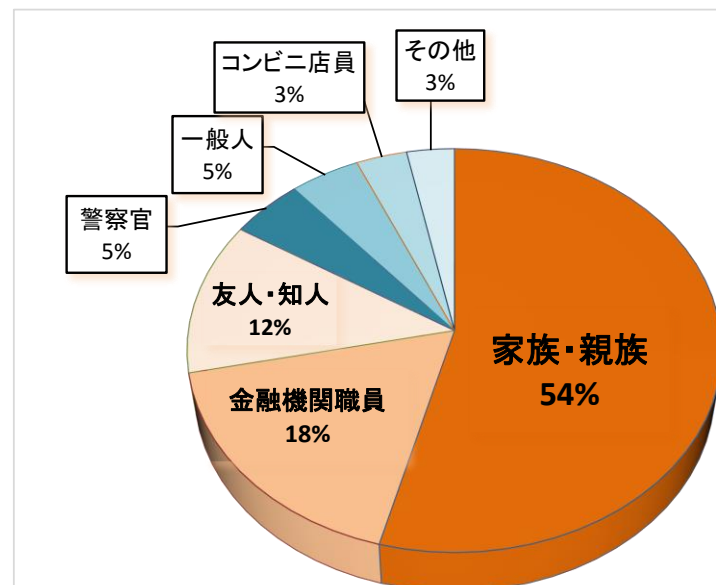
アポ電等の認知件数

	令和3年	令和2年	R4(1-5月)
アポ電	4,193	1,872	1,991
未然防止	473	256	212
被害認知	665	361	337

未然防止者(第三者)の内訳

未然防止者	令和3年	R4(1-5月)
家族・親族	256	115
金融機関職員	83	44
友人・知人	58	13
警察官	23	11
一般人	22	15
コンビニ店員	16	11
その他	15	3

【未然防止者の割合(令和3年)】

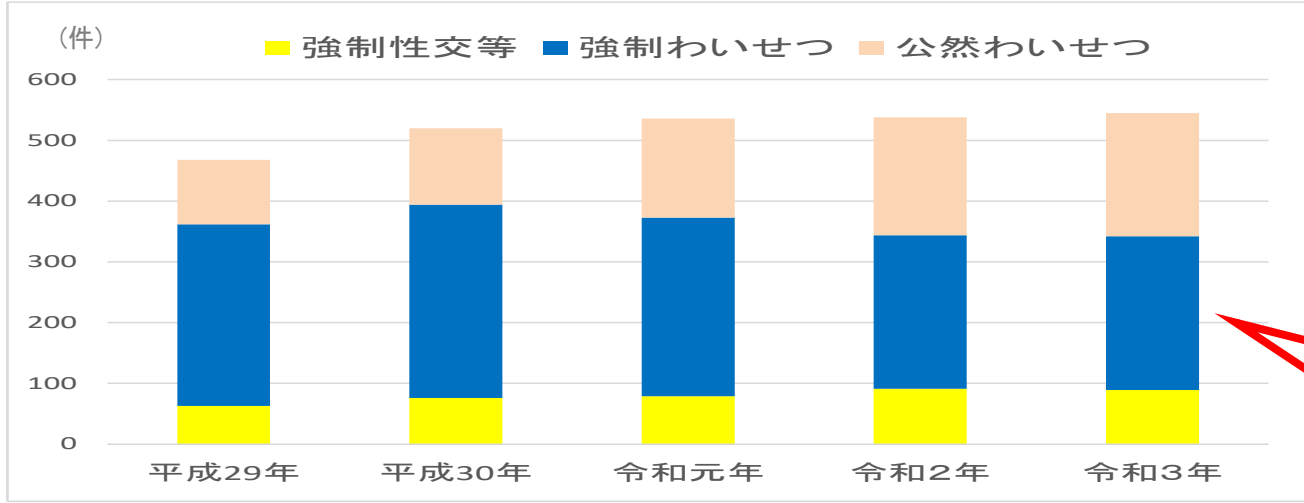


【総評(令和3年)】

- 令和3年の認知件数は665件(昨年比約+84%)、被害金額は約10億円(昨年比約+25%)で、認知件数・被害金額ともに増加した。
- 令和3年の手口別認知件数では、還付金詐欺の認知件数が323件(昨年比約+573%)、被害金額は約3億2,900万円(昨年比約+506%)となり、還付金詐欺の被害増加が顕著である。
- 令和4年5月末現在では、前年同期比で特殊詐欺全体の認知件数は約+85%、被害金額は約+24%と、増加傾向にある。
- 被害者の年齢別・男女別では、70・80代女性が突出して多く、男女合わせて、60歳代以上の被害が全体の約94%を占めた。
- 未然防止者のうち、家族・親族による未然防止が過半数を占め、次いで金融機関職員となっている。

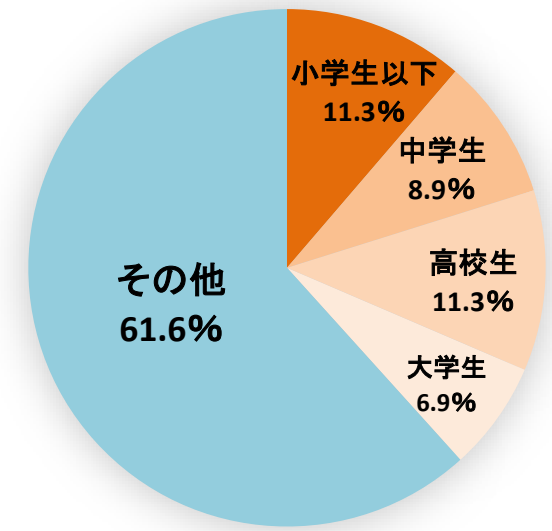
大阪市における子供や女性を狙った性犯罪

性犯罪認知件数の推移(過去5年)



	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
強制性交等	63	76	79	91	89
強制わいせつ	299	318	294	253	248
公然わいせつ	106	126	163	194	203

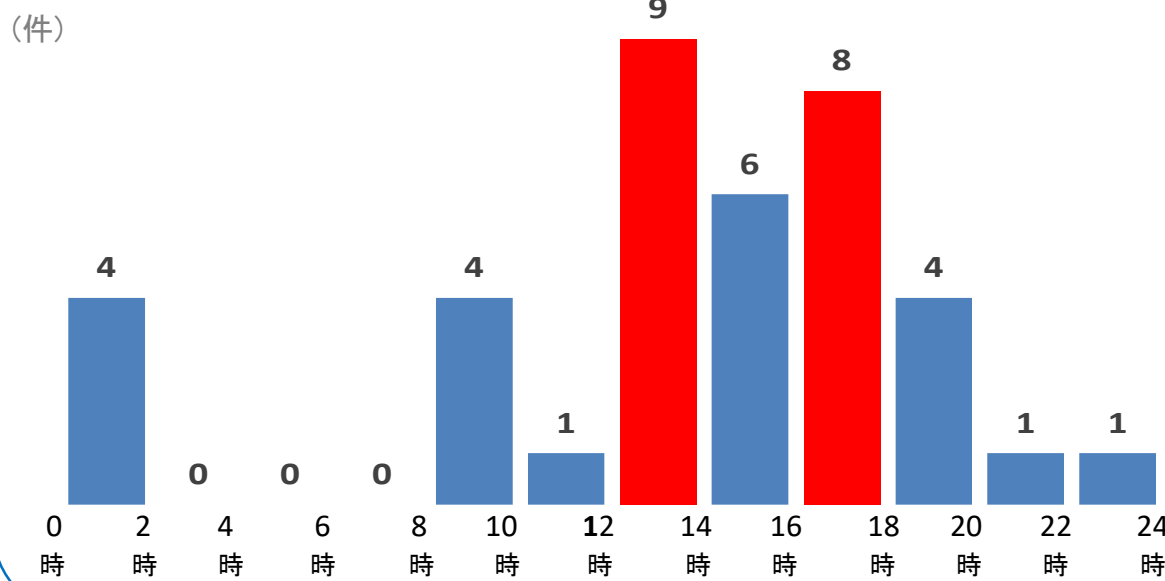
強制わいせつ被害者【学職別】



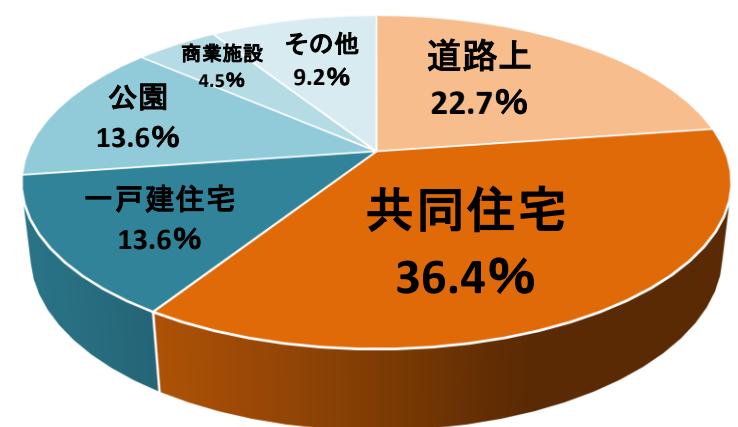
➢ 強制わいせつの被害者のうち、約4割が学生及び未就学児である。

強制わいせつ被害【小学生以下】の認知件数(令和3年)

【時間帯別】



【被害場所別】



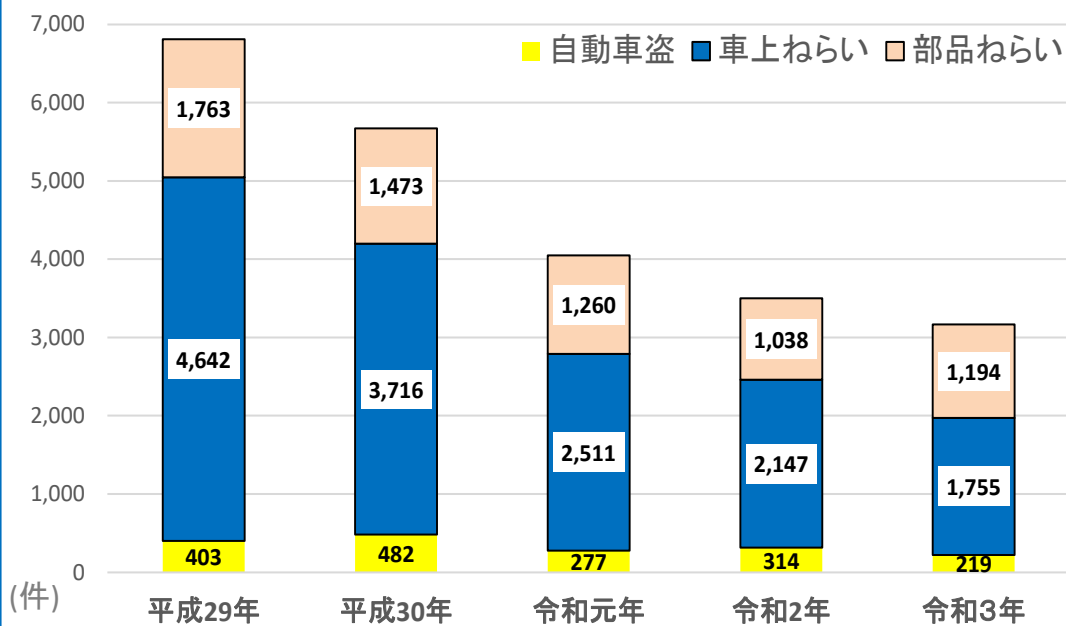
➢ 小学生以下の強制わいせつ被害について、発生時間帯は12時から18時の間が最も多く、発生場所は共同住宅と道路上で約60%を占めている。

【総評(令和3年)】

令和2年と比較して、性犯罪の総数は、ほぼ横ばいであったが、公然わいせつは9件(+4.6%)増加している。

大阪市における自動車関連犯罪

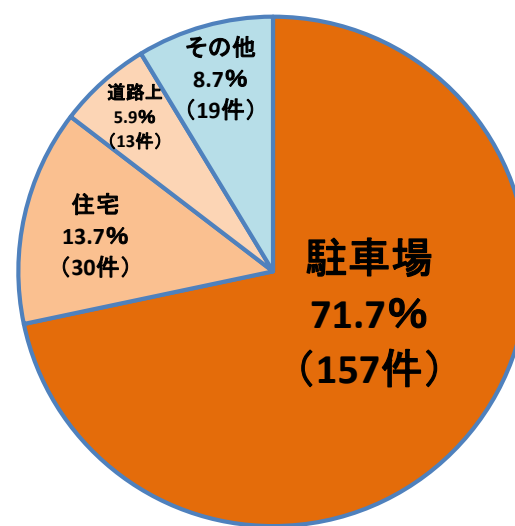
認知件数の推移(過去5年)



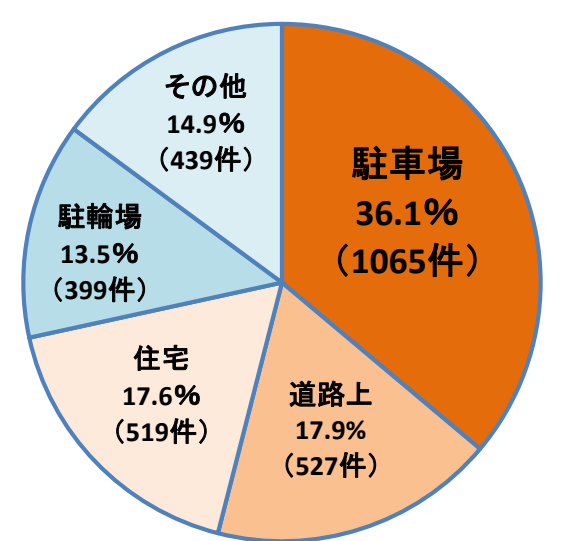
	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
自動車盗	403	482	277	314	219
車上ねらい	4,642	3,716	2,511	2,147	1,755
部品ねらい	1,763	1,473	1,260	1,038	1,194

【被害場所別】(令和3年)

【自動車盗】



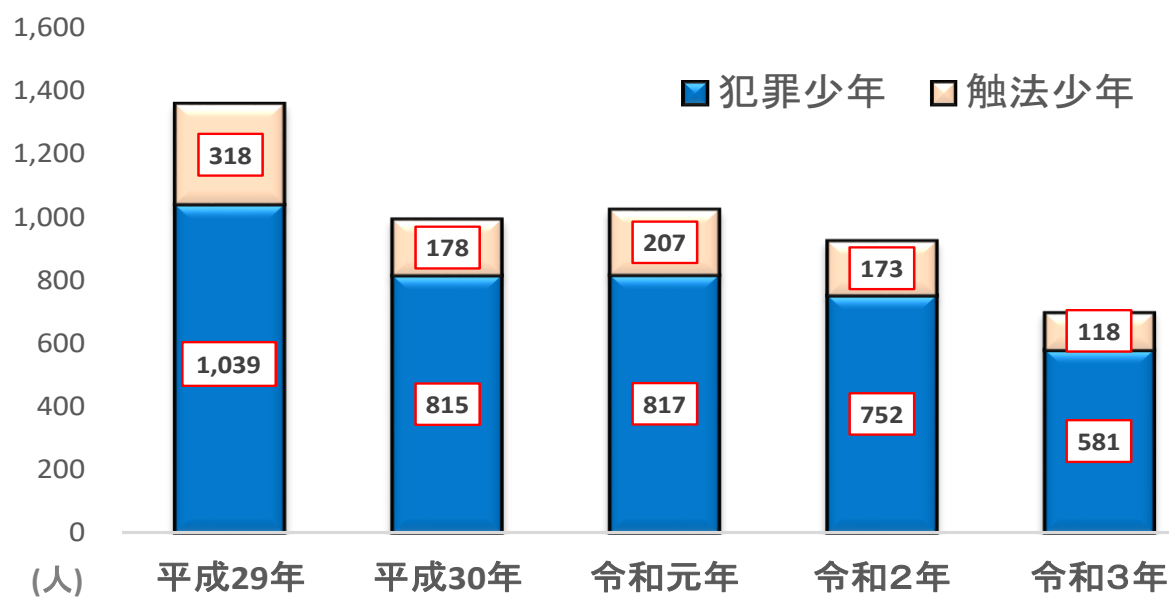
【車上ねらい・部品ねらい】



【総評(令和3年)】

- 令和2年と比較して、自動車関連犯罪の総数は、331件(約9%)減少したが、部品ねらいは、156件(約15%)増加した。
- 自動車盗の被害場所については、駐車場が最も多く、次に住宅での被害が多い。
- 車上ねらい・部品ねらいの被害場所は、駐車場が最も多く、次に道路上、住宅の順に被害が多い。

刑法犯少年 検挙・補導人員 (過去5年)



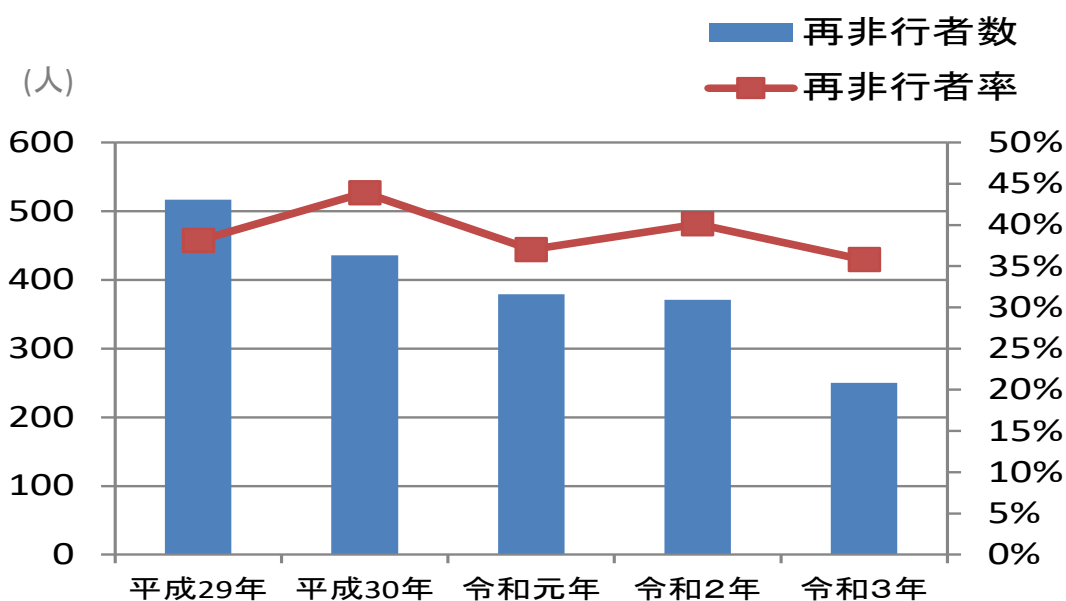
区分	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
刑法犯少年	1,357	993	1,024	925	699
犯罪少年	1,039	815	817	752	581
触法少年	318	178	207	173	118
少年の占める割合	16.0%	12.8%	12.9%	12.3%	10.3%

※ 少年……20歳未満の者をいう。
 ※ 犯罪少年…犯罪行為をした14歳以上の少年
 ※ 触法少年…刑罰法令に触れる行為をした14歳未満の少年
 ※ 少年の占める割合…刑法犯で検挙(成人を含む)又は補導した人員のうち、少年の占める割合をいう。

刑法犯少年 検挙・補導人員 (R3とR2の比較)

刑法犯(罪種別)	令和3年	令和2年	前年比
少年総数	699	925	-226
凶悪犯	29	47	-18
殺人	3	1	2
強盗	14	34	-20
放火	8	6	2
強制性交等	4	6	-2
粗暴犯	106	167	-61
暴行	37	31	6
傷害	55	106	-51
脅迫	4	6	-2
恐喝	10	23	-13
凶器準備集合	0	1	-1
窃盗犯	333	433	-100
自動車盗	2	3	-1
オートバイ盗	34	27	7
自転車盗	105	114	-9
ひったくり	11	6	5
車上ねらい	5	11	-6
部品ねらい	17	28	-11
万引き	99	147	-48
その他	60	97	-37
知能犯	17	27	-10
横領	0	1	-1
詐欺	15	16	-1
その他	2	10	-8
風俗犯	31	23	8
強制わいせつ	20	12	8
公然わいせつ	10	11	-1
賭博	1	0	1
その他の刑法犯	183	228	-45
占有離脱物横領	82	122	-40
その他	101	106	-5

刑法犯少年 再非行者数・再非行者率 (過去5年)



区分	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
再非行者数	517	436	379	371	250
再非行者率	38.1%	43.9%	37.0%	40.1%	35.8%

※ 再非行者率…犯罪少年・触法少年のうち、過去に何らかの非行を犯し、検挙・補導されたことのある少年の割合をいう。

【総評(令和3年)】

- 刑法犯少年の検挙・補導人員は699人で、前年比約24%の減少となった。
- 窃盗犯少年が前年比で100人(約23%)減少するなど、ほとんどの罪種で減少したが、強制わいせつの検挙・補導人員は20人で、前年比約66%の増加となった。
- 学職別では、高校生が約36%で、全体の約3分の1以上を占め、中学生と合わせて約56%になるなど、全体の半数以上を占めた。
- 特別法犯では、少年の軽犯罪法違反・大麻取締法違反の検挙・補導人員がそれぞれ増加しており、特に、大麻取締法違反の検挙人員が61人で、前年比約39%の増加となり、少年の薬物事犯が増加傾向にある。

特別法犯少年 検挙・補導人員 (R3とR2の比較)

特別法犯(罪種別)	令和3年	令和2年	前年比
少年総数	208	227	-19
軽犯罪法	47	29	18
大麻取締法	61	44	17
覚せい剤取締法	8	8	0
銃刀法	7	6	1
児童買春・児童ポルノ法	12	17	-5
迷惑防止条例	39	67	-28
青少年保護育成条例	9	11	-2
その他	25	45	-20

刑法犯少年(学職別) 検挙・補導人員 (令和3年)

